

平成28年度 地域の寺子屋推進フォーラム実施報告



日時 平成28年12月23日（金）13:00～16:00

場所 中原区役所 5F 501～503会議室

主催 川崎市教育委員会

共催 川崎市地域教育推進協議会、学校・家庭・地域の連携協力推進会議

参加者数 約130人

平成28年度「地域学校協働活動」推進に係る文部科学大臣表彰受賞セレモニー

臨港中学校区地域教育会議 地域の寺子屋

菅生中学校区地域教育会議 地域の寺子屋



シンポジウム「いま、地域の寺子屋が熱い！」～寺子屋から生まれる子どもと大人の豊かな関係～

コーディネーター

川崎市教育委員 中村香

パネリスト

東小倉小地域の寺子屋事業事務局コーディネーター 中島守

菅生中学校区地域教育会議議長 生駒みを

みた・まちもり寺子屋コーディネーター 塩沢和美

川崎市長 福田紀彦

川崎市教育委員会教育長 渡邊直美



東小倉小、菅生中学校区、三田小の3つの寺子屋の実践報告に続き、パネルディスカッションを行いました。

(福田市長) 地域の寺子屋は私の選挙公約。アイデアベースのところから、想像を超えた。現在、開講している26の寺子屋は、全部違うスタイルで、地域の実情に合わせている。菅生中は学習支援を既にしていたことで、寺子屋に発展した。寺子屋には熱い人が集まっていると、今日の3団体の発表から思った。

(中村氏) コーディネーターの皆さんの話からは、寺子屋では子どもだけでなく、大人も楽しく活動されている様子が感じられる。寺子屋とは、大人にとっても意味のある場所なのだろう。

(渡邊教育長) 臨時教育審議会のときに、学校教育・社会教育を貫くものとして、生涯学習という言葉が使われた。生涯豊かな人生を送るための生涯学習体系を捉えるというものである。「かわさき教育プラン」では、基本理念に「夢や希望を抱いて生きがいのある人生を送るための礎を築く」ことを掲げている。子どもが地域の中に居場所を見つけることは、子どもが地域の中で認められること。

市長の公約だからやらされているのではなく、子どもにとって意味のあること、大切なことだと思うから推進するという考えに立っている。子どもの居場所を見つけていきたい。

【子どもの居場所】

(中村氏) 会場からの質問に「三田小の自己紹介ゲームとは何か教えて欲しい」という内容がある。他の地域でも、子ども同士のつながりをつくるために工夫されていることがあれば教えてほしい。

(塩沢氏) 寺子屋先生や子どもたちが仲良くなるために考えたもので、最初の人に続いて「〇〇さんの隣の××です」「〇〇さんの隣の××さんの隣の□□です」と、紹介をしていくゲーム。後になる人ほど難しいけれど、他の人の名前を憶えられて、寺子屋先生も子ども達も一緒になって楽しんだ。

(生駒氏) 体験活動の場では、自然に仲良くなっている。学習教室(プラス1)では、子どもたち5~8人ぐらいずつ1つのテーブルに向かって勉強するので、自然と他のクラスの子と話したりしている。

(中島氏) 体験活動は1~6年生の縦割りでグループを作っている。上級生がリーダーになってもらいたいが、中には4年生の子がリーダーになることもある。1~3年生を対象に実施している学習教室では、大人が言っても言うことを聞かない1~2年生たちが、3年生をリーダーにして注意すると、しっかりするようになる。

(中村氏) いわゆるナナメの関係が、子どもの成長を促すと言われている。

(中村氏) 子どもの居場所になっているようだが、活動に入りにくい子どもについてはどうしているのか。

(塩沢氏) 強制はせずに、温かく見守るようにしている。寺子屋先生達に声をかけてもらうことが大切。一対一の対応が必要な時もある。

(中島氏) 来る子には平等に接している。また、欠席の子は理由を確認している。友達と遊びたくなくて欠席するケースや塾などで欠席するケースなどがあるが、それは仕方ないと考えている。体験活動は申込人数が多くて抽選にしているが、3回ぐらい連続して外れると、申し込まなくなってしまうので、多少調整を行っている。

(生駒氏) プラス1活動は子どもが自主的に参加している。学習面で課題があるけれど来ない子については、引っ張ってくるわけにもいかないので、働きかけ方に悩んでいる。

(中村氏) 学校の宿題を寺子屋で取り上げているところと、そうでないところがある。教育委員会のお考えは。

(渡邊教育長) できれば、親には子どもの学習内容について、分かってもらいたいし、寺子屋任せにはなっていて欲しくないと考えているが、共働き家庭の増加や、様々な家庭が増えている中で、じっくりと勉強を見てもらえる状況にない家庭もある。

【地域の中の学校】

(中村氏) 子どもの成育空間が変わってきている。家庭や学校だけでなく、社会や地域で子ども達に係わっていくことが大切。一方で、今、当事者意識の薄い人が多いと言われている。

(福田市長) これからの地域づくりのキーワードは、多世代、異学年、多様性。これまでは、このような関係を分断してきた。市内の9割が核家族や単身世帯である。それをもう1度つなぐのは大変であるが、1つの仕掛けが寺子屋である。教育だけでなく地域づくりにもなっており、教育委員会だけの活動ではない。年度初めに、校長先生達に対して話をさせていただく機会があり、「地域とコミュニケーションができない人は(校長就任を)辞退して欲しい」と伝えた。学校と地域の一体化、シームレスな状態にしていけることが大事。

(中村氏) 学校は地域との連携が大切。次期学習指導要領では「社会に開かれた教育課程」ということが示されている。地域あつての学校教育ではないか。

(渡邊教育長) 地域あつての学校である。この10年間で学校側の意識も変わってきた。学校評価制度が義務付けられて、地域の方に学校を見てもらい、評価してもらっている。また、地域の方に外部講師として学校に入ってもらっている。そのことが、学校が地域を見直す機会になっている。今度改正される学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」として、子どもが社会に意識を持つこと、保護者が子どもの教育に関心を持つことが記されている。平成32年度から導入される予定である。

【大人のつながり】

(中村氏) 子どもの成長に地域は欠かせず、人のつながりが地域づくりになるのだろう。寺子屋は子どもにとってのみならず、大人にとっても意味があるのではないか。コーディネーターの皆さんにとってのやりがいとは?ご自分にとっての意味があれば…。

(生駒氏) 様々な方と一緒に考えていく過程の中で、人と人がつながっていくことを実感している。

菅生の地域教育会議では「道親ネットワーク」という活動をしている。道であった子ども達はみんな自分たちの子どもとして見守り一緒に育てていきたい、大人も子どもも親しく声をかけ合える優しい地域を目指した活動。

(中島氏) シニアや子どもたちなど地域の人と挨拶ができるようになることが嬉しい。寺子屋の活動は忙しいけれど、リターンは苦勞を上回っている。

(中村氏) 私も現役時代の中島さんと同じで、自分の地域についてはあまり知らない人が、地域に軟着陸するのは大変だと言われている、世間では「濡れ落ち葉」や「ワシ族」といった言葉もある中、中島さんが上手くいった秘訣があれば教えてほしい。

(中島氏) リタイアしたときにやりたい趣味もあったが、たまたま自治会の当番が回ってきた。会社の先輩から、リタイアしたら会社のつながりを切った方がよいとアドバイスされていた。自分もリタイアしたら地域に溶け込もうと思っていたので、徹底して地域の催しに参加した。地域の方々と挨拶できる関係が築けるようになり安心している。

(福田市長) 4年間の浪人生活のときに、地域の人話を聞いて回った。同時に自分の父親がリタイアして退屈し、時間をもてあましていたのを見ていた。リタイアされた方たちの多才な能力を活かしていただきたいとの発想から、寺子屋のアイデアが生まれた。

(中村氏) 地域には多彩な方がいて、能力を活かし生きがいを得るためにも寺子屋が役立つのかも。

(塩沢氏) 私は、みんなで地域のことを考えて暮らしやすい町を作りたい。寺子屋をやることで目的に向かっていけると思う。寺子屋で先生をやっている人が、頑張っている姿を見るのが嬉しい。これから地域のことと一緒に話していけそうで、寺子屋を通じて、地域の力が向上していると思う。

【学生も活躍】

(中村氏)「三田小は学生と連携しているとのことだが、どのような内容か」というご質問もある。

(塩沢氏) 専修大学の教員志望の4年生が毎週参加してくれている。教育委員会が大学に募集をかけてくれた。シニアの先生方とは違い、子どもに年齢が近いこともあって人気がある。体験活動は明治大学とのつながりを活かして、大学から学生を紹介してもらい、活動につなげることができた。

(中村氏) 学生にとっても、アクティブラーニングの機会になる。

(福田市長) 先日、麻生区で、麻生区の学生と地域（自治会）の方が話し合いをした。すると、学生は地域の活動を知らないけれど、地域の人は、学生に参加してもらいたいと思っていた。

先日、多摩区で大学生と話をしたところ、8割の学生は、自分たち学生は地域から疎まれていると感じることがわかった。

学生と地域の方の思いがミスマッチングしている。話を麻生区に戻すと、麻生区の町会の回覧板等に大学の情報を載せて周知することになった。三田小の事例は珍しいと思う。

【寺子屋を始めるには】

(中村氏) 寺子屋の魅力が明らかになってきたが、「寺子屋先生になりたいが、どうしたらよいかわからない」という質問もあった。寺子屋先生の養成講座を修了したらどんな感じになるのか。

(事務局) まず教育委員会に登録してもらおうと、お住まいの近くの寺子屋を紹介する。お住まいの近くで寺子屋が開講されていないときは、開講まで待っていただいたり、お隣の地域の寺子屋を紹介することもある。また、自分で寺子屋を立ち上げたいという相談も受けている。1人でも立ち上げる意思があれば、教育委員会が仲間集めから一緒にやるし、全力でバックアップする。また、各市民館では寺子屋コーディネーター養成講座を開催しており、その修了生の方が中心となり立ち上がる寺子屋もある。

(中村氏) 寺子屋を始めたとして、学校との連携はどうしたらよいのか。

(渡邊教育長) 本日発表された3つの寺子屋は、学校長の熱意が感じられて良かった。当初から、寺子屋は学校にお任せで運営していくものではないと考えていた。NPOや地域教育会議など色々な形態でやっていたことを実証してきた。ただ、学校も地域任せにはしていない。4月の合同校長会議で、いずれ全ての学校で寺子屋を開講することになるのだから、受身ではなく、地域の状況を考えて学校から地域へ働きかけていくことも必要だという話をした。驚いている学校長もいたが、みな理解してくれた。

(中村氏) これからは、学校との連携で寺子屋の運営がもっとしやすくなるかもしれない。ただ、学校任せではいけない。川崎には地域力があるから寺子屋を実現できている。

(中村氏) 菅生中への質問で「中学生の教材はどのように用意されているのか」とのことだが。

(生駒氏) 学校からテスト範囲や学習進捗の情報をもらい、独自にドリルを作成している。数学の問題はネットなどから公開されているものを利用し、英語はドリル作成の担当者が子どもの学習状況に合わせて作成している。高度な問題ではなくて、最低限、授業についていけるようになるために必要なことを考えて作っている。

【寺子屋を発展させるには】

(中村氏) 寺子屋は子どもや大人にとって意味があるという話であったが、寺子屋を発展させるには、学校との連携のみならず、寺子屋同士が連携し情報を共有することが大切。中原区では「中原区寺子屋ネットワーク」というものがあるそうだが。

(中原区寺子屋ネットワーク事務局)「中原区寺子屋ネットワーク」は、中原区地域教育会議の議長さんが代表となり、事務局を生涯学習財団が務めている。中原区内で寺子屋を運営している方たちが集まって、活動のアイデアなどを出し合い、地域の実情に合わせた活動するヒントを得ている。

(中原区寺子屋ネットワーク代表)そもそもは、寺子屋を始めたい人がいたら支援する場、寺子屋の情報交換や相談する場作りを目的として立ち上げた。寺子屋同士の情報交換会は今年初めて開催した。

(中村氏) ネットワークでお互いに学び合うことは、社会教育としても大切であり、町づくりにつながる。

(生駒氏) 寺子屋を始めたいということであれば、各地域には地域教育会議という組織があるので、これを活かさない手はない。

(福田市長)「中原区寺子屋ネットワーク」は素晴らしい。寺子屋の設置計画では、今年度は各区内に5校、計35校を目指している。ただ、教育委員会には無理やり設置するものではないと言っている。また、寺子屋が増えていくと教育委員会だけで全ての面倒を見るのは大変なので、中原区のように横のネットワークで寺子屋同士がつながり、教育委員会と一緒にやっているとよい。「寺子屋ネットワーク」が各区に広がっていくことを期待している。

【最後に一言】

(中島氏) 寺子屋を始めるキッカケは、地域で声をかける勇気。

(生駒氏) 地域に参加することが大切。活動する場はある。参加すれば誰かが見ている、引っ張ってくれる。人生をもったいないことにしないためにも、一歩を踏み出してほしい。

(塩沢氏) 寺子屋を始めるのに不安があれば三田へ連絡をしてほしい。子どもと親とシニア(地域)が豊かになるツールが寺子屋。

(福田市長)「幸せ学」で言っている幸せの定義の一つに、「自分が必要とされていることを自覚したとき」というものがある。寺子屋をやっている人は、忙しいけれど幸せだと思う。ぜひ、伝道師になって周りの方たちに伝えてもらいたい。

(渡邊教育長) かわさき教育プランの目標を実現するための視点の一つに、子ども達に川崎という街への愛着を育むことを掲げている。寺子屋に参加した子ども達が、寺子屋先生達の姿を見て、将来、地域のために活動するような循環を長いスパンで育んでいきたい。教員の喜びは子どもの成長を感じることに。同じ喜びを寺子屋の先生たちも感じるができると思う。



パネル展示出展団体

- ・ 宇宙航空研究開発機構 (JAXA)
- ・ 公益社団法人 日本スポーツチャンバラ協会
- ・ NPO法人かながわ子ども教室
- ・ NPO法人日本造形教育振興協会
- ・ 公益財団法人 日本和紙ちぎり絵協会
- ・ NPO法人かわさき市民アカデミー
- ・ 川崎市地球温暖化防止活動推進センター
- ・ CCなかはら
- ・ NPO法人南相馬サイエンスラボ
- ・ 育ち合い支援事業りんぴっぴ

- ・ NPO団体わくラボ
- ・ 寺子屋中野島
- ・ 菅生中学校区地域教育会議
- ・ 寺子屋いぬくらっこ
- ・ 寺子屋すみよし（中原区寺子屋ネットワーク）
- ・ 寺子屋東菅・登戸



(参加者の感想)

- ・ 子どもも大人も楽しいと思える場にするのが一番と思いました。今日は参加させていただき、とても参考になりました。寺子屋先生養成講座も受けましたので、不安はまだいっぱいありますが、前向きにやってみたいと思います。
- ・ 各団体からの発表の中に、開講して良かったこと、厳しかったこと、直面した問題についてもっと深掘りした報告がほしかった。
- ・ 休憩時間に周りのブースを見学する時間があって良かった。
- ・ これから始めたいという人、団体を呼び込む工夫が必要ではないかと思う。終了後、相談コーナーの設置とか。各区単位でのネットワーク化も必要。
- ・ 寺子屋がきっかけで地域がつながるって素晴らしいなと思いました。地域にいるどの年代の方々も活躍できると思うので、もっと寺子屋を多くの方に知ってもらいたいと思います！ありがとうございました。
- ・ 寺子屋の事業は子ども達のためだけではなく、コーディネーター、寺子屋先生はもちろん、地域の大人の生きがい、やりがい、居場所づくりにも役立っているという話に、改めて気づきを得ました。
- ・ 大変参考になりました。
- ・ 孫が中原小の寺子屋に参加している。どのようなことをやっているのか興味があり参加しました。各団体で創意工夫があり感心しきり。
- ・ 素晴らしい活動報告を伺い大変参考になりました。まずは気張らず一歩一歩進んでいきたいと思います。
- ・ 大変参考になりました。ありがとうございました。自分の地域の立ち上げに頑張ります。
- ・ コーディネーターをしてくださる方を探すのは大変です。こういう機会を設けてくださってありがとうございます。本校での寺子屋を立ち上げるに当たってのイメージがふくらんできました。

- ・学童保育と同類のものかと思っていましたが、誤解であることに気づかされました。関心は深まり参加についても検討したいと思いました。
- ・昨年も参加しましたが、今年は色々な団体の紹介があり、ずいぶん内容が充実されたと思いました。寺子屋のネットワークができたりと、活動が活発になっていますね。ただ、教員退職者が数人いなければ実現が難しいのではないかと、寺子屋を見学して思いました。「各小学校に寺子屋を！」とのことですが、学校から独立して（負担をかけずに）成り立たせるのは何だか虫のいい話に感じます。地域の人から小学校の中は見えないのに「学校の協力なしに、地域の力でその学校の子の学力向上に尽力しなさい」と聞こえます。子どもの力を伸ばすのはそんなに簡単なものではないですよ。寺子屋の目的は「地域づくり」とだけ考えれば納得します。会場に三田小の校長先生がいらしていたそうですね。地域を考えていらっしゃる方だと感じました。子どもの笑顔のために寺子屋が役に立つなら、現場の先生の協力が無いのは違和感です。
- ・寺子屋事業は大変素晴らしいと思いますが、この事業の中では区役所の姿が見えません。区役所の現場では地域包括ケアシステムのため混乱状態にあります。予算配分の関係で子育て支援事業が削られました。市一区一地域のトータルでの視点、連携が必要かと思えます。そのような課題も取り上げてほしかったです。
- ・映像はもう少し明るくなければ見やすくなったと思います。音声も、もう少し大きくなれば、発表者の内容がもっと聞きやすかったと思います。
- ・寺子屋事業を立ち上げようという意欲が大事。思い切って踏み切ることが必要と言うご意見に大賛成。良いフォーラムでした。
- ・寺子屋スタッフをしながら、今年度は子ども会の副会長で今まで以上にイベントに参加しました。本日のフォーラムでも社会教育、地域とのつながりについての話が出ましたが、回覧板で情報を流すだけではつながれない事実も感じた一年でした。しなしながら、一緒にイベント運営をしながら寺子屋の話を伝えたりすることで、子どもが大好きな方、イベント運営を楽しくとても気配り上手にこなすママ達もたくさんいて、本当に一人一人ひとりが財産だなあと、私の学校区に寺子屋があったらなあと思切に感じました（でも、私自身が発起人になるのは無理だなあと思うのですが）。
- ・もっと多くの方に参加してほしいです。12月23日と固定で続けていけば次第に増えていくと思います。
- ・今井小学校で寺子屋の運営を担当している専修大学経営学部4年の者（認定NPO法人キーパーソン21の学生会員）です。事例紹介のところで、川崎市教育委員会の方から専修大学に寺子屋先生の募集があったとのことですが、もし教育委員会の方から大学に依頼をしてもらえらるならば、どのようにアプローチをかければよろしいでしょうか。今井小の寺子屋は地域の方々とのつながりがあまりないのですが、今後、地域の方を巻き込むにはどのようにしていけばよろしいでしょうか。
- ・コーディネーターです。福田市長さんが、校長先生は地域とのコミュニケーション能力が必要、とのご意見に大変共感いたします。長く活動していく上で、とても実感していたことです。校長先生や担当の先生が変わられたとしても、変わらずスムーズに継続していける環境であることはありがたいのです。今後も、地域活動、寺子屋の啓発、推進のご協力をよろしくお願い申し上げます。
- ・これから寺子屋を立ち上げていくのに、いろんな学校のいろんな形があることが分かり、勉強になりました。独自の形を作り上げていきたいと思えます。市長のお話が聞けて良かったです。地域とのつながりを大切に、寺子屋を盛り上げていくことができればよいと思えます。
- ・①子どもファーストか、②地域ファーストか。①>②だと思うが、②>①になりつつあるように感じた。私としては、①>②で考えたい。
- ・大変良かったと思えます。和紙ちぎり絵体験が少しでも増えればありがたいと思っています。ご協力します。
- ・寺子屋をやっていく上での問題点なども出してほしかった。良いことばかりの発表だったとも思う。
- ・寺子屋を運営していく上で、とても参考になることが多かった。町会を主体としたり、地域教育会議を主体としたり、運営に特色が出ていた。学習教室、体験活動の進め方で評価（アセスメント）に関心を持った。

前半後半の入れ替え制で学習教室を実施しているが、現状は慌ただしく、評価に取り組めていない。次年度、考えていきたい。

- 寺子屋の形は一樣でない。地域によって、いろいろな良い経験、交流ができていて、それを知り嬉しく思いました。子どもの学習支援は大事なことだと実感いたしました。
- 民生委員で子育て支援や地域の子どもたちのためのイベント（例えばウォーキングやもの作り）を企画して活動しています。すでに行っていることが寺子屋の目的にも合っているし、すでに行っている高齢者の活動（おしゃべりなどのカフェ）がその手助けになるかもしれない。というように、始めるためのヒントをいただいたと思います。
- 様々な情報が得られました。
- 栗木台教室の運営に活かしていきたいと思います。
- 寺子屋事業において実際に取り組まれている講座の内容等、大変参考になりました。（公財）日本和紙ちぎり絵協会がお手伝いできることがありましたら、ぜひさせていただきたく、お願いいたします。
- 寺子屋事業の内容が大変よく分かりました。ちぎり絵、折り紙、エコクラフトの講師をしておりますので、今後お手伝いできることがあれば、ぜひ参加していきたいです。
- それぞれの地域や寺子屋を受けている団体によって、特徴をいかした寺子屋事業を展開していることが理解できた。
- 各寺子屋の立ち上げや維持、活動内容の違いや共通点、また協力団体の層の厚さなどを知ることができました。小生の地域ではまだ発足していないようですが、そういう計画があればぜひ参加させていただきたいと思っています。福田さんに市長になってもらって本当に良かったです！！まだお若いですが、ぜひ市民のために頑張ってください。
- 学校は地域に存在し、寺子屋のシステムも学校の協力を得て地域の人びとの協力が如何に強力であるか、改めて痛感いたしました。自身も寺子屋に参加し、微力ながら子ども達、地域に貢献していきたいと思います。
- 学童保育の指導員を10年やっておりました。学童保育にて子ども達に豊かな体験を多く提供したいと考えておりましたが、資金や時間の制約、保護者の意識、考え方、子どもを心配するあまりの過敏な反応などにより、思ったように実現できず、もどかしい思いをしておりました。寺子屋事業はそういったことをクリアにできる素敵な事業であると感じました。熱意のある大人が質の高い寺子屋を立ち上げ、子ども達の豊かな心が育まれる未来になると良いと思いました。



アンケート結果

回収枚数 40枚

男性 42.5% ・ 女性 57.5%

(問) これまで寺子屋事業に関わる事業に参加されたことはありますか

1. 寺子屋先生、コーディネーターをしている 52.5%
2. 寺子屋先生養成講座に参加したことがある 17.5%
3. 市民館等で開催される寺子屋に関する学習会に参加したことがある 7.5%
4. はじめて参加した 30%

① 今回のフォーラムにどの程度満足されましたか	1. 満足 50% 2. どちらかという満足 42.5% 3. どちらかという不満 0% 4. 不満 0%
② フォーラムに参加して、新たな気付きはありましたか	1. あった 65% 2. どちらかという、あった 27.5% 3. どちらかという、なかった 0% 4. なかった 0%
③ 今回のフォーラムは、子どもや地域のことを考えるきっかけとなりましたか	1. なった 67.5% 2. どちらかという、なった 25% 3. どちらかという、ならなかった 0% 4. ならなかった 0%
④ 今回のフォーラムで、寺子屋事業のことが分かりましたか	1. よく分かった 72.5% 2. どちらかという、分かった 20% 3. どちらかという、分からなかった 0% 4. 分からなかった 0%
⑤ 寺子屋の活動に関心を持ちましたか	1. 関心を持ち、今後参加してみたい 47.5% 2. 関心は持った 10% 3. 関心を持たなかった 0% 4. 今までも参加している 35%

フォーラム実施に向けて多くの方のご協力とご尽力をいただき、
またたくさんの方にご参加いただきました。ありがとうございました。

